

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

ケニア共和国

オレントン地域開発プログラム(KEN-177602)



平日は女子生徒用の寄宿舎に寝泊まりしているセリナちゃん（14歳）

チャイルドストーリー

学校の設備が整い、 勉強に集中できるようになりました



週末は自宅に帰ります

オレントン地域開発プログラム（以下、ADP）の支援地域で暮らすセリナちゃんに通う小学校には、以前は門もフェンスもなく、頻繁に泥棒が入ったり、生徒が授業を抜け出したりしていました。しかし、ワールド・ビジョン（以下、WV）の支援で門とフェンスができ、生徒たちの安全が確保され、授業を抜け出す生徒もいなくなりました。また家が遠い生徒のために、寄宿舎が完成しました。セリナちゃんも平日はこの寄宿舎で寝泊まりし、週末に自宅に帰ります。

支援によって、学校には井戸と学校菜園も整備されました。生徒たちは遠くまで水を汲みに行く必要がなくなり、学校菜園で採れる野菜が寄宿舎の生徒たちの食料として使われるようになりました。「以前は通学や水汲みに時間がかかり、放課後に勉強する時間がありませんでした。今は以前より勉強に充てられる時間が増え、成績も良くなりました」笑顔で話すセリナちゃん。教育環境が整備され、子どもたちが勉強に集中できるようになってきています。

教育プロジェクト

教育の大切さを住民が理解し、より多くの子どもたちが学べるようになりました

ADPは、地域住民に対してこれまで地道に教育の重要性を訴える活動を行ってきました。長年の努力の成果もあり、小学校に入学する子どもの数は年々増え、地域全体で2014年は7,989人(2013年は7,441人)に達し、無事卒業する子どもの割合も78%(2013年)から80%(2014年)へと向上しています。小学校8校では寄宿舎も併設されました。支援地域では通学のために片道10kmもの距離を歩かなければならな

い子どもたちが珍しくありません。寄宿舎で寝泊りすることで、子どもたちはより多くの時間を先生や友だちとの交流や勉強に充てることができるようになりました。さらに、ADPが学校運営委員会を支援して行政に働きかけた結果、教師不足に悩まされていた小学校8校に1人ずつ新しい教師が派遣されました。

 **7,989**人の子どもたちが小学校に入学



支援地域内の小学校に通う子どもたち。この学校では教員用の住居建設を支援し、教師が少しでも良い仕事ができるよう後押ししています



各学校には学校運営委員会という組織がありますが、委員を招いてより良い学校運営の方法や学習環境改善に関する研修も行いました

保健・HIV/エイズ対策・栄養プロジェクト

地域保健ボランティアの能力を強化し、住民の健康を守っています

2014年度も地域保健ボランティアの研修に力を入れ、彼らが地域内の子もたちの病気や栄養不良を早期に発見し、必要な対処を行えるよう支援しました。保健ボランティアは担当する家庭を訪問し、産前・産後健診や母乳育児の大切さ、栄養バランスに配慮した食事の作り方や急性下痢への対応などを、育児中の親や妊産婦に伝えています。彼らの



地域保健ボランティアは子どもたちの身長、体重も定期的に計測し、健康状態や成長を確認しています

働きの成果もあり、産前健診を受けるようになった女性の割合は54.0% (2012年) から78.6% (2014年) に向上しました。また、ケニア保健省と協力し、医療施設に通えない遠隔地の住民に対して9回の巡回診療を行い、合計で3,213人の人々に基本的な医療サービスを提供しました。



第2子の健診と予防接種のために医療施設を訪れたマーシーさん (22歳)

上の子を出産したときに、ADPの研修で生後6カ月までは母乳で育てた方が良いと学び実践したところ、病気にかからず元気に成長し、母乳育児の成果を実感しました。この子も母乳で育てています



産前健診を受ける女性の割合

54.0% (2012年) → 78.6% (2014年)



支援地域の女性のインタビュー

支援によって女性が夢を持てるようになりました

Q. 家族構成を教えてください。

夫はすでに他界しています。子どもが5人います。

Q. 子どもの頃学校に通いましたか。

いいえ、通えませんでした。もし学校に通えていたら、計算や読み書きができたのと思います。私の子どもたちは学校に通うことができ、恵まれています。

Q. ADPの活動に参加してどのような変化がありましたか。

ADPの支援が始まって、この地域は大きく変わりました。私はFGM(女性器切除)廃止のための活動に関わってきました。また、女子生徒に教育の重要性を伝え、学校をやめないように啓発する活動や、地域の女性に対し自宅ではなく医療施設での出産を促す活動もしています。支援によって地域の女性が力をつけ、夢を持てるようになりつつあります。

Q. 今の夢を教えてください。

ADPの支援によって学校に寄宿舎ができ、勉強を続ける子どもたちが増えています。将来は大学まで通える子どもたちが増えることを願います。



学校運営委員会のメンバーとして活動するグレースさん (40歳)



ADPスタッフ・インタビュー

Q.どのような仕事をしていますか。

支援地域に住む約1,600人のチャイルドを定期的に訪問し、毎日学校に通い、健康に成長しているかを確認しています。何か問題があるときは追跡調査をしたり必要な解決策を講じます。チャイルド・スポンサーと子どもたちの手紙の交流の橋渡しや、地域の人々がADPの活動に参加するよう促すのも私の仕事です。

Q.2014年にいちばん困難だったことは何ですか。それをどのように解決しましたか。

オレントン地域では女子の早婚が深刻な問題です。ADPでは早婚防止の啓発活動を行っていますが、それでも早婚により学校をやめてしまう子どもがいます。村の指導者と連携しながら、この問題に取り組んでいます。

Q.WVで働く原動力となっているものは何ですか。

子どもたちの笑顔が私にとっての励みです。子どもたちと将来の希望について話すことが私の原動力です。



オレントンADPスタッフ ロバート・コイサバ(29歳)

スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト



チャイルド・スポンサーへ送るクリスマスカードを持つチャイルド

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行うほか、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。そのほか、地域内で最も貧しい子どもたち54人に対しては、小学校卒業後、高校に進学できるよう学費を一部補助し、障がいを持つ子どもたち10人には車イスを支給しました。 ※ケニアでは8年間の小学校の後は4年間の高校が続きます。

会計報告

KEN-177602

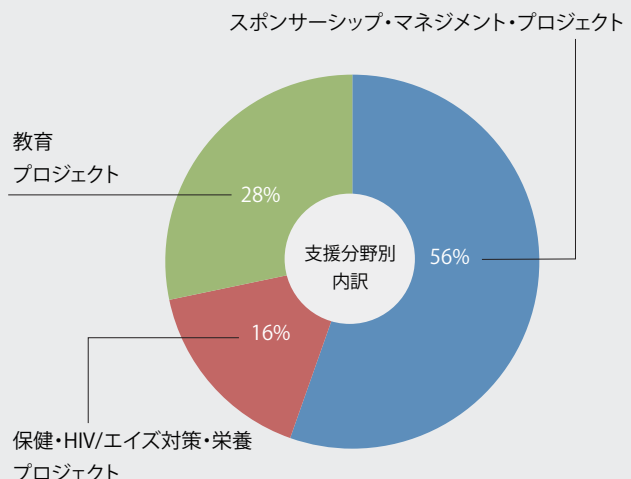
収支計算書 自2013年10月1日 至2014年9月30日

プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	47,071,137
当期支援額	47,071,137
前期繰越金	-774,747
プログラム支援額合計	46,296,390

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクト	24,959,445
保健・HIV/エイズ対策・栄養プロジェクト	7,358,912
教育プロジェクト	12,740,456
プログラム支出額合計	45,058,813
次期繰越額	1,237,577



スポンサーシップ・マネジмент・プロジェクトでは、チャイルドとの手紙の交流の他、子どもの権利に関する啓発活動、子ども議会、出生証明書の発行手続きの支援、地域内で最も貧しい子どもたちへの教育費の援助などを行いました。

お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
電話：03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
FAX：03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ：www.worldvision.jp
e-mail：dservice@worldvision.or.jp